

# 地域から平和をつくる

## ビキニ事件70年に寄せて

ビキニ市民ネットやいづ代表幹事 加藤 一夫

### はじめに

第五福竜丸がアメリカの核実験で被ばくして70年目になる。1954年3月1日の出来事で当時は日本だけでなく世界中の注目を集めたが、今や忘却の縁にたっている。しかし、事件は終わったわけではない。以後に発生した「放射線被ばく（フォールアウト、死の灰と当時はいわれた）」事件の中で新たな意味をもってきている。70年目を目前にこの事件の歴史の意味を再確認しておこう。

### ビキニ事件と第五福竜丸

1954年3月1日早朝、日本から4

500キロ離れたマーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが水爆実験を行った。威力は広島原爆の1000倍以上。この時、近くで操業していた多くのマグロ漁船が

「死の灰」（フォールアウト）を浴び被ばくした。第五福竜丸はその一つ。無事母港焼津へ逃げ帰ったことで秘密にされていた核実験の実相が明らかにされた。当時は第五福竜丸事件と呼ばれた。その後、その影響力・被災の大きさが明らかになり「ビキニ事件」といわれるようになった。さらに現在では、福島の原発事故などをふくめて「太平洋フォールアウト事件」ともいわれる。

被ばく船は、マグロ漁船だけではない、捕鯨船、貨物船などを含めてマーシャル諸島でアメリカが核実験を行っている間

に1000隻以上が被ばくし、被ばく漁船の多くは漁獲した魚を破棄したことで多大な経済的損害を与えた。

第五福竜丸事件が発生するとまず東京杉並の母親たちや漁協関係者たちからアメリカの核実験に反対の声が沸き起こり、それが反対署名活動として全国に波及していった。その結果として、その年の夏、広島で原水爆禁止世界大会が開催された（焼津の出来事や署名については東松山市にある丸木美術館に収められている）。

太平洋の実験はそれだけではない。その後、イギリスやフランスなど核保有国が、南太平洋で頻繁に実験を繰り返した、その数300回以上。実験は太平洋を汚し、周辺国家に大きな被害を及ぼした。



焼津港の第五福竜丸

その影響は現在も続いている。その後、当時の冷戦（アメリカとソ連の対立）の中で、原水爆禁止運動が分裂し、その影響は地域の運動に大きな影響を与えた、市民は分断された。

他方でアメリカは日米関係の悪化を危惧して、多くの被災船で第五福竜丸のみ

に見舞金（賠償金ではない）を支払い事態の終息をはかった。このことも漁民に悪影響をあたえた。焼津市民・漁民は第五福竜丸に目を背けるようになった。これをどうするかが私たち市民運動の課題となった。

しかし第五福竜丸事件は、重要な意義を持つていることにはわりはない。それは以下の点で重要である。

- ・第五福竜丸が焼津港へ逃げ帰ったことでアメリカが機密にしていた核実験の実相を日本・世界に知らしめた。
- ・人々の日常生活に「被ばくの恐怖」を伝えたことで核（原子力）の恐ろしさを認識させた。
- ・事件の衝撃から反核平和運動が起り、活動の結果、これまで、秘密にされていた広島や長崎の被爆の実態が明らかになり、その後の被ばく者補償の出発点となった。

- ・日本における放射線研究の出発点となり、放射能・放射線に関する知識が国民の間で広まった。アメリカの核政策の転換をもたらし、後のNPTやCTBT体制を形成する前提を作った。

- ・日本と世界で署名活動が広まり反核平和運動を拡大させ、原水爆禁止世界大

会を開催した。

- ・日本における水産業・漁業の近代化を促す契機となり、近代的な雇用関係が開始され、その後の経済成長の前提を作った。

- ・この事件を背景に新しいカルチャーが誕生した（例えば、ゴジラなどの怪獣文化。ゴジラは世界的に有名な日本産の怪獣である）。

以上からビキニ事件・第五福竜丸事件は世界の平和運動にとって重要な位置にあることを確認しておこう。

## ビキニ事件は終わっていない

ところで、第五福竜丸以外の船舶についてもその実態はすでに明らかにされている。特に高知はマグロ漁業が盛んで、それ故被害も大きかった。ここでは被災者たちの活動を契機に、地域漁民の救済運動が活発化し、すでに80年代半ばに「太平洋核被災支援センター」が結成されて、高知地域の漁民救済だけでなく全国の被災者救済活動を展開し、裁判闘争を行った。しかし、残念ながらすべて原告の敗訴に終わっている。それにもめげず、高

知漁民は、国を相手に損害賠償闘争を続けている（現在は労災申請訴訟を行っている）。私たちも、応援しているのだが、勝訴は難しいのではないかと思う。

私見だが数多く裁判闘争にも関わってきた経験から、こういう闘いで原告が勝つことは難しい。その理由は、日本の政府は原則「棄民政策」をとり、アメリカには「忖度」して。ともかく、ビキニ事件は終わっていないのだ。

### 3・11（原発事故）から学ぶもの

2011年3月11日午後2時46分、東北地方でM9・0の地震が発生、津波が東日本を襲った。それによって東京電力福島第一原子力発電所で原発事故が発生し、多量の放射線が周辺地域にまき散らされた。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故である。これについて詳しく述べることはしない。

すでにあれから12年が過ぎて、原状復帰が進んでいるが、課題も少なくない。今なお多くの人々が避難生活を送っている。この事故は、ウクライナのチェルノブイリを超える原発事故だが、本質は放

射線がまき散らされ人々が被ばくした「フォールアウト」事件と同じで平和利用の原子力被災で、軍事利用の核被災と同じものである。核（軍事利用）と原子力（平和利用）は同じものであることを学んだ。

結論として私たちは、原発に反対することを選択した。そして地域だけでなく全国的な運動にも参加して学んできた。課題が解決することなく残っている。日本のエネルギー政策の問題、使用済み核燃料の置き場、核のゴミの処理、自然エネルギー問題などこれらについても学んでいきたい。

### 「ビキニ市民ネットやいづ」の活動から

私たちの運動について報告しよう。1992年3月、32年務めた国会図書館から焼津市に新設された大学の教員として赴任した私は、当時の焼津市の不思議な風景に出会った。市内ではこの船について口を閉ざしているようだった。そこで第五福竜丸事件50年が近づいたころ市民の間で学習会（焼津平和学）を開き、市民とともに話し合いを開始した。200

2年にその有志で「ビキニ市民ネットやいづ」をつくり、「やいづ流平和の作り方」として運動をはじめた。

当時まだ第五福竜丸の乗組員も漁協関係者もたくさん生存していて、その人たちの声を聴くことから運動を開始した。2004年の事件50周年は大いに盛り上がり、これまで口を閉ざしていた市民も声を上げるようになった。

分断されて口を閉ざしてきた市民にも変化が起こっていた。それを背景にして多くの市民活動をした、政治運動ではなく地域の生活に即して、この事件を考えてみようとしたためだ。さらに、当時平和運動の分裂騒ぎだった。現在も運動主体（原水協・原水禁）は分裂したままになっている。

私たちの「平和を作る」運動も、3年に及ぶコロナ禍で動きが封じられていたが、ようやく第五福竜丸事件70年から再出発の準備をしている。

### 若い世代へ継承するために教育現場に望むこと

残念なことにこの事件は、教育の現場から姿を消しつつある。「はだしのゲン」

も「第五福竜丸」も教材から姿を消しつつある。一方、教育勅語復活を口にする教育関係者もあり「戦前の風景」がよみがえりつつある。

しかし、ビキニ事件については近年ユース(若い世代)が注目し始めている。例えば、すでに触れたように80年代半ばから高知では幡多地域の高校生たちが、被ばく漁民の聞き取りや、最近では核兵器反対運動に取りんでいるし、長崎から始まった高校生平和大使運動もすでに全国に拡大している。静岡県では私たちがこの運動に協力して行動している。

核兵器禁止問題に関しては大学生の活動も活発になっていく。とりわけ核兵器禁止条約成立後、状況に変化が起こっている。さらなるユースの動きによって核兵器禁止運動を拡大し、活発にしていきたい。

こうした学生の運動に学校関係者も配慮し賛同してほしい。現在も続いているウクライナ戦争やガザ・イスラエル戦争など世界戦争になりつつある世界を変え、平和を訴えてほしい。日本ではかつての戦争の後で「戦地に子どもたちをおくらない」と誓ったはずだ。「戦前」は浮上し始めている。2024年は二つの

戦争をやめて平和な世界にするよう努力したい。

## むすびにかえて

ビキニ事件(第五福竜丸事件)70年が近づいている。これまでの運動の蓄積から、70年目は世界的な規模で注目されると信じている。ビキニ事件は終わっていないのだ。

最後に、私自身この文章を病床で書いている。7年前に家族の病气から25年間単身赴任していた焼津市を離れ、埼玉県熊谷市に移住・移転したが、この2年間怪我と脳梗塞と不明感染症(コロナも含む)で2年間の闘病生活を送ってきた。ようやく快方に向かいつつあるので、まもなく現場に復帰する予定である。ともかく頑張ります。

(熊谷空襲を忘れない市民の会顧問)

### 書籍紹介

本書は、焼津市を中心に展開される「地域から平和をつくる」運動の記録をとおして、ビキニ事件が戦後日本に何をもたらしたかを手面的に検証する。地域の生活圏を舞台に、著者自らが参加した社会運動は、反核平和運動に新たな視座を提示している。

(著書の帯より抜粋)

ピキニ・やいづ・フクシマ  
地域社会からの反核平和運動

加藤一夫著 2017年 社会評論社刊

